

[た よ り]

和歌山県支部の現況

柏井利彦

和歌山県の透析医療は阿部富弥現和歌山医大名誉教授を中心に進歩、発展し、勉強会である和歌山透析研究会は今年 30 周年を迎えた。透析医会は少し遅く昭和 56 年に結成され、平成元年から日本透析医会の支部となり現在に至っている。結成当初は理事の互選により役員を決めていたが、平成 12 年より会員全員の選挙により会長・副会長を選出、理事・監事は会長・副会長より委嘱するように変更している。

平成 14 年 4 月現在の役員は表 1 の通り。

表 1 和歌山県支部役員

| | | |
|-----|-------|-------------------|
| 会 長 | 柏井利彦 | 柏井内科クリニック |
| 副会長 | 打田和宏 | 紀北クリニック |
| 理 事 | 秋澤忠男 | 和歌山県立医科大学血液浄化センター |
| | 宇治田卓也 | 宇治田循環器科内科 |
| | 遠藤 悟 | 和歌浦中央病院 |
| | 大伴裕美子 | 日本赤十字社和歌山医療センター |
| | 高野 登 | 中谷病院 |
| | 半羽健二 | 半羽胃腸病院 |
| | 前田明文 | 児玉病院 |
| | 根木茂雄 | 和歌山県立医科大学血液浄化センター |
| 監 事 | 木下敬之助 | 松尾外科 |
| 顧 問 | 阿部富弥 | 中谷病院・和歌山医科大学名誉教授 |

1 現在の主な活動状況

1) 和歌山県の慢性透析療法の現況把握

日本透析医学会統計調査委員会の資料より和歌山県の結果を抽出し、全国平均と比較検討した主な内容を表 2 に示す。

2) 新規導入患者の検討

2000 年末の現況より和歌山県では慢性腎不全患者が多く、かつ導入 3 ヶ月以内の死亡例が多いとの認識より、本年より新規導入患者の実態調査を行うこととした。和歌山県と連携し保存期の腎不全患者の実態把握に協力していく予定である。

3) 講演会の開催

和歌山県の透析療法の勉強会とも言える和歌山透析研究会や CAPD 懇話会の充実は勿論、感染症による死亡例が多いとの結果より、和歌山県立医科大学血液浄化センターの秋澤教授のご尽力により東京女子医科大学秋葉隆教授を講師に迎え、感染症に対する講演会を開催した。今後も講演会など勉強会を開催していく予定となっている。

4) 防災情報ネットワークの立ち上げ

平成 14 年 4 月より和歌山透析医会のホームページとして防災情報ネットワーク (<http://www2.osk.3web.ne.jp/~dialysis/>) を開設している。

このホームページを通じ会員の情報交換を密にしたいと考えている。

2 和歌山県の問題点

和歌山県の透析施設は人口の多い、紀ノ川筋、海岸線に沿ったところに偏在している。透析医療機関への通院時間 1 時間以内を目指しているが、交通機関の発達していない山間部では通院がかなりの患者負担となっている。かなりの施設で送迎を行っているがなお不十分の状態である。

表 2 和歌山県の現況 (2000 年末)

| | | | |
|----------------------|---|--------|---------------------|
| 1. 和歌山県の現況 | | | |
| 透析施設 | 42 施設 | | |
| 同時透析 | 892 床 | | |
| 最大 | 2,817 名 | | |
| 慢性透析患者数 | 2,082 名 | 最長 | 29 年 8 ヶ月, 47 歳, 女性 |
| 新規導入患者数 | 326 名 | | |
| 年間死亡患者数 | 208 名 | | |
| 粗死亡率 | 10.4% | (全国平均) | 9.4% |
| 2. 慢性透析患者の人口 100 万対比 | | | |
| | 1,945.8 人 | (全国平均) | 1,624.1 人 第 7 位) |
| 3. 1983 年以降導入患者生存率 | | | |
| | 83.0% | (全国平均) | 85.2% 第 37 位) |
| 4. 2000 年導入患者の傾向 | | | |
| ① 導入年齢 | | | |
| 和歌山県 全体 | 65.27 歳 | 男性 | 64.61 歳 女性 66.21 歳 |
| 全国平均 全体 | 63.78 歳 | 男性 | 63.04 歳 女性 64.98 歳 |
| | 全国平均より高齢で、特に男性では約 1.6 歳も年齢が高い。 | | |
| ② 原疾患 | | | |
| | 慢性糸球体腎炎由来 45.6% 糖尿病性腎症 32.5% | | |
| | 慢性糸球体腎炎由来が最も多く、全国では比率が減少しているにもかかわらずむしろ増加している。糖尿病性腎症は 36.9% と全国平均とほぼ同様であった。 | | |
| ③ 死亡 | | | |
| | 報告されている 36 名の死亡の内 22 名が 3 ヶ月以内に死亡、中でも感染症による死亡が 7 名いた。 | | |
| 5. 種々の因子より見た和歌山県の現況 | | | |
| ① 透析前ヘマトクリット値 | | | |
| | 全体では 31.9% と全国平均の 30% に比べ高く、約 69% の患者が 30% 以上で、35% 以上も多い。 | | |
| ② エリスロポエチン使用量 | | | |
| | エリスロポエチンの 1 週間の使用量は平均 5,488 単位と全国平均の 4,917 単位より多く、週 9,000 単位を超える患者が 24.5% もいた。 | | |
| ③ 透析後体重減少率 | | | |
| | 全体では 4.98% で全国平均の 4.74% より多く、特に女性では 5% 以上と水分制限に問題がある。 | | |
| ④ BMI | | | |
| | 全体では平均 20.19 と全国平均の 20.66 に比べ低く、標準とされる 22 以上の患者は 25.1% に過ぎず、痩せているといえる。 | | |
| ⑤ 死亡原因 | | | |
| | 死亡原因では心不全は全国と変わりなく 20% 前後だが、感染症は 22% と多く、この傾向は 2000 年に新規導入された患者の死亡原因と同様の傾向であった。 | | |

和歌山県の現状について述べたが、透析医会への参 いないのが現状である。
 加率も低く、他府県に比べ残念ながら十分活動できて